JASIS 関西 2019 見聞録

大阪市北区のグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）において，分析機器・科学機器の展示会 JASIS 関西 2019 が 2 月 5 日（火）から 7 日（木）の日程で行われました。JASIS（＝Japan Analytical & Scientific Instruments Show）は，2012 年の第 50 回分析展（日本分析機器工業会）と第 35 回科学機器展（日本科学機器協会）を機に，合同展の統一名称として決められたもので，例年，千葉県の幕張メッセにおいて 9 月上旬に開催されているものです。今回，初めての試みとして関西で，また，冬季に開催することとなりました。関西をはじめとする西日本のニーズに応えるとともに，日進月歩である先端技術のアップデートをきめ細かくすることを目的としており，今後 2 年に 1 回のペースで JASIS 幕張と半年程度ずらした時期に開催していくことが予定されています。

今回の JASIS 取材では中日にあたる 6 日の午後にお伺いしました。会場は，3 階の受付・展示会場と 10 階のセミナー会場（新技術説明会・オープンソリューションフォーラムを開催）・事務局に分かれており，その間はエレベータで移動するのですが，案内もあり移動は非常にスムーズで不便は感じませんでした。10 階の事務局本部を訪問し，JASIS 委員会副委員長（JASIS 関西担当）の野元政男様をはじめ，JASIS 委員会委員長の長谷川武義様，事務局長の片岡信義様から JASIS 関西 2019 の概要や特徴を伺いました。今回は，関西での開催場所を決めるにあたり，京都・大阪・神戸から検討した結果，ニーズの大きさ，適当な展示会場があることが主な理由で大阪に決定したとのことです。大阪には他に大きな展示会場としてインテックス大阪がありますが，交通の便を考慮して，今回の会場が選ばれました。実際，京阪中之島線の終点・中之島駅直結に直結しており，JR 大阪駅の隣の JR 大阪環状線・福島駅からも徒歩圏であるなどきわめて至便な会場でありました。

開催規模は，展示面積 2,600 m^2，出展社数 93 社（機関），小間数は 176 小間となり，例年の千葉幕張での開催規模（参考：JASIS2018 では展示面積 33,969 m^2，出展社数は 494 社（機関），小間数は 1,462 小間）に比べればかなり小ぶりながら，展示会として十分な規模で見ごたえのあるものとなりました。なお，事務局によると今回は初めての開催ということもあり，興味はあるが様子を見てから今後の参加を検討するとした企業も多く，潜在的な出展希望数は多いので次回以降規模が拡大する可能性が十分にあるとのことでした。

入場者については，3 日間合計で 4,038 名となりました。内訳を見ますと 5 日が 1,490 人，6 日が 1,294 人，7 日が 1,254 人でした。こちらも JASIS2018 の合計 23,697 人（4 日間）と比べると少ない数ですが，日数の違いの他，寒い時期であり雨が降っていたこと，また大学等の繁忙期に当たることを考慮すれば，上記の開催規模に対して決して少ない数ではありません。事務局の目標値も達成できたとのことです。また，幕張開催の場合と異なり，事前登録者のうちの不参加者数が少なかったとのことです。やはり，関西近郊からの交通の便の良さに加え，後述するように展示会がコンパクトかつ充実していたことと相まって，半日参加などフレキシブルなスケジュールを立てられた（参加キャンセルの必要がなかった）ということが考えられます。これは主催者にとって今後に資する重要なポイントかと感じました。なお例年，幕張での開催は金曜を含む 4 日間とすることが多く，週末を含むことで参加しやすくするという狙いがあるのですが，今回は金曜を押さえられなかったとのことでした。次回開催に際してこの問題を解決できれば，さらに参加者が増える可能性があります。

上述のように，会場は小ぶりながらもそれに比して来

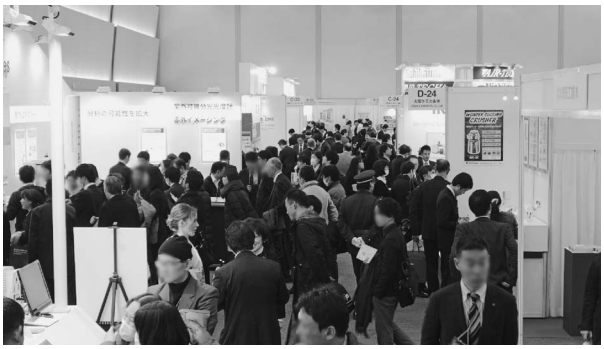

写真 1　JASIS 関西 2019 展示会場の様子 1

写真 2　JASIS 関西 2019 展示会場の様子 2

写真 3　JASIS 関西 2019 新技術説明会会場前の様子

写真 4　JASIS 関西 2019 新技術説明会会場内の様子

場者の数が多く，人口密度の高い展示会となりました。数字の上だけでなく，実際に会場（特にセミナー会場）は常に人が溢れんばかりの盛況でした。3 階会場（写真 1 および 2）においても，10 階会場（写真 3）においても，またその会場前にあたる廊下にも長蛇の列ができるなど（写真 4），常に人が多いばかりでなく議論も活発で，大変活気があるように感じました。

今回の展示会の大きな特徴として程良い「コンパクトさ」が挙げられます。例えば，10 階のセミナー会場で行われた新技術説明会では，並行して行われるセッションの数が，幕張のときより大幅に少ない三つに絞られており，内容的にも類似したカテゴリーの時間帯がほぼ被らないようにすることができ，参加者からはテーマを非常に選びやすかったと好評だったようです。また企業の側からも，お客様がターゲットを絞ってきてくれているので，問い合わせが多くあるなど反応も良かったとの声があったとのことです。3 階の展示会場も，詳しく話を聞いても 2〜3 時間程度で各企業ブースを一通り見て回れるほどの広さでした。あまり疲れることもないためか，各ブースでの出展者と参加者の議論も非常に活発に行われているように感じました。なお，10 階の会場にはまだ借用できるスペースに余裕があるとのことなので，次回以降は展示会場，セミナー会場が増える可能性があります。それでも長大な時間をかけることなく，十分に全体を網羅できるサイズ感だと思いました。今回

ポスター 1　JASIS 2019 のポスター

ネームタグのバーコードを読み取ることで参加者の動向を把握したところ，各参加者が 3 階と 10 階の両方に足を運んでくれていることが裏付けられたとのことでした。短時間で全体を知りたいという参加者にとってはきわめて便利な形態での開催スタイルであったといえます。今後の展示会開催に際しては非常に参考になるのではないかと思います。

展示会およびセミナー会場では，関西に限らず全国の企業による最先端機器や技術の紹介が多数あり，大変有用な情報が得られ，ユーザーにとっては機器や技術のきめ細かいフォローが可能になる大変嬉しい機会となりました。年度末の時期ということもあり，年度内の購入品リスト作成の参考にもなります。

次回 JASIS2019 は，また幕張メッセ国際展示場に戻っての開催となります（ポスター 1）。キャッチフレーズは,「未来発見。最先端科学・分析システム＆ソリューション展」としており，これまでの「アジア最大級の分析・科学機器専門展示会」から変更となります。JAIMA 栗原会長の意向により，よりニーズ・ユーザーに寄り添い，装置だけではなくソリューションを紹介することに力を入れるとともに，「アジア最大級」のフレーズからは脱却する方向とのことです。新たな方向性が期待できそうです。

最後に，今回の取材にあたって貴重な時間を割いていただき，本原稿執筆にも多大なご協力を賜りました JASIS 委員会及び事務局の皆様，運営に携わられた皆様に，この場を借りてお礼申し上げます。

〔理化学研究所　田中　陽
滋賀県立大学　丸尾雅啓〕